ものにしたが（第十三図参照）」とあって，その第十三図の説明には「ドドエンス(Dodoens) 著 Trium priorum de Stirpium Historia 即ち Cruydtboeck の初版（一五五三年刊）の一部（著者蔵本）」とあって *Iris germanica* の図がのせてある。それで1554年と1553年と年号があわないことが前から気になっていた。初版の紹介でこの Trium priorum de stirpium historia commentariorum imagines ad vivum expressae. (1553) Antwerpiae. これを『本草図集』とよんでおくと『本草書』原本 (1554) とは全く異った書物であり，しかしまたこの「本草図集」の図が「本草書」の原本に用いられていることがわかった。上野博士引用の図は木であるリンゴを除いてすべて『本草図集』(1553) の図であり，この書が 10×16 cm の小本なので1頁1図である点は異る。『本草図集』には図の側らに，ギリシャ語，ラテン語，ドイツ語，フランス語および薬材名をあげることにとどまる。この書物についてはさらに今後の研究によって述べたい。

またドドネウスの『本草書』初版 (1554) の上野博士引用図で『本草図集』(1553) にも出ている7種の草の図はすべてフックス (L. Fuchs) の本草書，De historia stirpium commentarii imagines. (1542) Basileae と全く同じ図柄である。フックスのこの本はフォリオ版のうえに1頁1図なので図が非常に大きいが，ついで出たオクタボ版 (1545) の図はより小さいからドドネウスや他の図説家に便利に用いられたであろう。

□**田村道夫： 生きている古代植物** カラー自然ガイド 18, 151 pp. 1974年 保育社 380円。書名から本書の意図を推測しがたいが，著者もその点を考慮して“何らかの意味で古いと考えられる性質”をもつ植物を通し，“植物の進化をさぐろうとした”と断っている。101ページのシャジクモの生卵器の図に5個あるべき冠細胞が2個しか描かれておらず原形質体の螺旋のまき方が逆でしかも不確かに描かれている等，全体に不注意な誤りや細かな配慮に欠ける点が目立つ。種子植物の部分は最新の研究も取入れた記述が試みられてはいるもののシダ植物では最近の研究はほぼ採択されていない。だから Lyon (1964) の研究も無視されてアステロキシロンは古生マツバラン類として扱つている。鱗木と封印木は著者の言うヒカゲノカズラではなく明らかにイワヒバのなかまであることは既に常識である。陸上植物がはじめて現われた時期について1ページではデボン紀下部としているが105ページではシルル紀としているなど内容の矛盾もみられる。日本産フサシダ科植物に小笠原のフサシダを落したりした誤りも目に付く。“(小葉は) 茎の管状中心柱に葉隙をつくらない”等，理解に苦しむ解説もある。さらに Wieland (1906) のキカデオイデの復原図をはじめ明らかに他書から引用した図に若干のものを除いてそれが明示されていない。そればかりか記述にもごく一部を除いて誰が明らかにした見解なのかも明記されていない。これは本書に限ったことではなくこの種の啓蒙書に頻繁に見受けるが，専門家の著作である以上どれが著者のオリジナルな仕事であるかを明らかにして欲しかった。 (大場秀章)